

## 5 校内研究全体計画・校内研修年間計画

### 令和7年度 校内研修全体計画

#### 1 研究テーマ

豊かな心を持ち、夢の実現に努め、共に高め合う子どもの育成  
～チームで取り組む授業改善～

#### 2 研究テーマ設定の理由

##### (1) 今日の課題から

現代の子どもたちは、「国際情勢の不安」「新型コロナウイルスの感染拡大」「少子高齢化」など先行きが不透明な「予測困難な時代」を生きている。令和5年3月の中央教育審議会答申「次期教育振興基本政策について」では、そのような社会の中で、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく人材の育成の必要性を述べている。そのために、一人一人の子どもが、自分と他者を大切な存在として尊重し、多様な人々と協働しながら課題を解決し、豊かな人生を切り拓いていく資質が求められると考える。課題に気づき、自ら考え表現し、多様な考えをもつ人々と対話したり、交流をしたりしながら学びを深めていく授業づくりが欠かせない。また、我々教師自身もそのような授業づくりに向けて、日々授業改善を行っていく必要がある。

以上のことから、研究テーマを学校教育目標の「豊かな心を持ち、夢の実現に努め、共に高め合う子どもの育成」とし、我々教師自身の授業改善に焦点化した研究を進めていきたいと考えた。

##### (2) 本校の教育目標から

本校の校訓は、「至誠 勤勉 共同」である。思いやりの心を大切し、目標に向けて励み、仲間と共に課題を解決し、自己を成長させていく姿を目指す子どもの姿としている。熊本市では、子どもたちが「教わる」から「学びとる」という意識を持ち、「自分たちで課題を見つけて解決していく学習」「友達と対話しながら問題を解決していく学習」等、子ども主体の授業を目指している。

本校では、友達と対話し、交流しながら学びを深める授業づくりを目指すことで、友達の考えを認めたり受け止めたりする「真心」が育まれ、難しい課題にも友達と協働して「チャレンジ」し、「みんな」で課題を解決することで、子どもたちが自分自身を成長させていけると考える。そして、メンター方式で構成したチームで授業改善に取り組むことにより、学校教育目標の具現化につながると考えた。

##### (3) これまでの研究の経緯と子どもの実態から

本校では、「子どもに付けたい力を明確にした問題づくり」「子どもの考えをつなぎ高める工夫」「振り返りの工夫」「ICTを活用した考え共有の工夫」を行ってきた。令和4年度から「学習課題・対話・振り返り」を大切にしたい授業づくりを行い、これまで実践してきたことを総合的に取りまとめながら、授業改善を行った。加えて、事後研は職員同士が対話し、協働しながら学んでいく形態で進めている。次の課題として、子ども同士の対話や交流の質を向上し、より効果的に学びを深めていく授業の創造、言葉などの表現方法を見直し、自分や相手の考えを尊重しながら、よりよい課題解決をすることができる子どもたちの資質の向上が挙げられる。

本校の令和6年度の熊本市学力調査の結果は、国語科は偏差値49.0（現6年）、44.6（現5年）、46.6（現4年）、算数科は偏差値46.0（現6年）、46.7（現5年）、44.6（現4年）

と、2教科とも全国平均を下回っている。個人差、学年差はあるものの、全体的に学力に伸び悩みが見られる。また、同じく個人差はあるものの、全体的に落ち着いて学習に取り組んでいて、学習意欲もある。

一方で、昨年度の校内研修において、子どもたちの課題について話し合った結果、「考えを積極的に発することが苦手な子どもがいる。」「単発的な意見が多く、考えのつながりや深まりが見られない。」「子ども同士の話し合いの際、相手の話を理解することなく、交流が続く場合がある。」という課題が挙げられた。どの学年部においても「自ら課題を考える」「他者と協働して学ぶ」に、授業改善のキーワードに含まれていて、ソーシャル・スキル・トレーニングや発表の仕方の学習訓練が必要であり、安心して学習に取り組める学級づくりも必要である。つまり、子どもの実態から考えても、本研究主題は妥当であると考えられる。

### 3 研究テーマについて

#### (1) 「チームで取り組む授業改善」とは

「チームで取り組む授業改善」の「チーム」とは、メンター方式で構成したチームのことを意味する。本校の校内研でのメンターチームは、今年度は低学年、中学年、高学年でそれぞれ1チームずつとし、初任校3年目までの教職員を中心にして、みんなで授業づくりを学び合って授業改善に取り組んでいく。

これまでの研究では、子どもの実態を出発点として研究を進めてきたが、「教師の授業改善」を出発点にして研究を進めていく。キーワードは、「教師が変われば、子どもは変わる」である。とは言え、子どもの実態把握はこれまで以上に大切にし、学校教育目標である「豊かな心を持ち、夢の実現に努め、共に高め合う子どもの育成」を目指していく。

### 4 研究の仮説

「豊かな心を持ち、夢の実現に努め、共に高め合う子どもの育成」を目指した授業づくりを行い、メンターチームで授業改善に取り組んでいけば、学校教育目標を実現することができるであろう。

### 5 目指す子どもの姿

- 自ら課題を見つけて、課題に主体的に取り組もうとする子ども
- 互いに関わり合い、考えを深めようとする子ども
- 学んだことを活用し、次に生かそうとする子ども

### 6 研究の視点

研究の視点はチームで設定、もしくは個人で設定することとする。

令和版【学びわくわく熊本市の授業づくり】

先生主導の「教えたい」を子ども主体の「学びたい」へ

～授業をステップアップさせる3C～      **Change   Challenge   Chance**

3つのポイント①めあて   ②対話（アウトプット）   ③振り返り

## 7 研究の方法

### (1) 研究授業を中心とした仮説の検証

- ・大研4本
- ・それ以外はすべて中研とする（全員授業）

### (2) アンケートの実施と分析

### (3) 研究の視点に沿った日常の授業実践

### (4) 研究のまとめ

## 8 研究の組織

